

北条高校の活性化について

一般質問



深田 真史 議員

(加西の新しい未来を創る政策研究会)

問 12月初め、北条高校の活性化策として打ち出された「北条高校アフタースクールゼミ事業」は、事業総額が年間1,000万円程度になることが明らかになった。しかし、北条高校へのアンケート結果からはゼミを受講しないと答えた北条高校の1・2年生は45%いる。また、北条高校1・2年生で既に塾に通っている生徒は100名程度いることがわかっている。そんな中、北条高校に限定した形で希望者のみに1,000万円ものお金、3年間で計3,000万円を投じることは疑問である。さらに、北条高校に進学した高校生以外約7割の加西市の高校生を別にして、加西市のお金を北条高校

だけに投じることが公平と言えるか。

一方、北条高校に対しても疑問がある。このゼミを実施するということは、平成27年4月からの高校の学区統合を目前に、北条高校の先生方はあきらめてしまったという印象を与えてしまいかねない。

答 北条高校は市内唯一の普通科高校であり、多くの市民にとって心のよりどころとなる地域の大切な資源だと思います。来年度、県立高校の学区再編が実施されることで、生徒の高校への志望動向が変化しており、将来安定的に北条高校への志願者を確保するため、加西市民から求められているのが北条高校への支援ではないかと考えています。

北条高校では、生徒の基礎学力と人間力を養い育てる充実した教育を実施しています。アンケート結果で高校に最も求められるものが、「大学などに進学できる学力の習得」であったように、大学合格実績に結び

つく受験対策を北条高校で講ずる必要があると考えています。従来通り、高校教育は北条高校が実施し、大学受験対策をゼミが補完する計画です。

意見 このゼミは一部の生徒しか受けられず、そこに市のお金を使うことは公平性に欠ける。学力向上・受験対策はまず北条高校の先生が行うことであり、この事業は見直すべきだ。それだけのお金を北条高校に投じる余裕があるなら、中学校教育に投じ、市内中学生の学力の底上げをすべき。これこそ「全国に誇れる教育都市」を目指す加西市の取り組みではないか。中学校なら市内の全中学生にお金を投じることになる。

■その他の質問項目

- ・学童保育について
- ・病院再編と加西病院について
- ・障害者福祉と就労支援について

旧北条市街地住環境整備について

一般質問



黒田 秀一 議員

(自民の風・誠真会)

問 住環境整備事業の目的について。

答 北条市街地は道路幅員が4メートルに満たない狭隘道路が多く、通行や環境衛生の問題だけでなく、地震や火災等の災害時における消防や救急活動に支障を来すことが予想されます。また、倒壊の恐れがある危険空き家や空き地も多数存在しています。

行政と地域住民が協力して住環境整備を行うことで、災害に強い持続性のある市街地の発展を目指していきたいと考えています。

問 北条地区まちづくり勉強会に

ついて。

答 9月、10月、11月の3回、まちづくりアドバイザーによる、まちづくり勉強会をアスティアかさいで開催しました。勉強会では、住環境整備について、住民の方への協力をお願いするとともに、行政側からの支援施策についてご説明し、広く周知するべく、質問への回答を含めた資料を隣保回覧及びホームページへ掲載しています。また、参加者の方からいただいた意見、要望を参考にしながら、制度の策定を現在進めているところです。

問 老朽住宅の取り壊しや後退道路用地部分の無償提供といった、住民の方からの協力に対しての、行政側からの協力支援施策の詳細はどのように考えているか。

答 住民の方のご協力に応じた助成制度を提案しています。①空

き家の除却がスムーズに行えるように費用の一部を助成する制度②道路用地後退部分や、隅切り部分の土地を市に無償提供していただいた場合に、面積に応じた奨励金を支払う制度の創設です。詳しい内容や助成金額については、現在予算措置を含め調整中です。

問 北条市街地の将来像について。

答 北条市街地は公共交通機関に近く、徒歩圏内に大型商業施設が立地している大変便利な地域です。買い物だけではなく、医療、福祉、教育、文化等のサービスが身近に利用できるコンパクトな町であり、この地域の問題を解決することは、人口の定住による市街地の活性化につながると考えています。

■その他の質問項目

- ・防災リーダー災害対応研修について